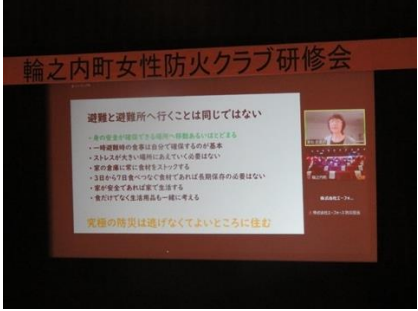



開催地名：岐阜県輪之内町	
開催日時	令和3年11月21日(木) 9:00～10:30
開催場所	輪之内町文化会館アーリオンホール
語り部	武蔵野美和 (岩手県陸前高田市)
参加者	輪之内町女性防火クラブ員 約50人
開催経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・本町は長良川・揖斐川の2つの河川に挟まれた場所に位置し、洪水のリスクが高い。また、地盤についても沖積層の堆積が厚く、非常に軟弱であることから、大地震が発生した際は甚大な被害が発生することが予見されている。 ・災害に対する危機意識が希薄化しつつあり、女性防火クラブについても「クラブ員としてどのような心構えを持ち、どういった活動を行うべきであるか」を明確にする必要がある。 ・ハザードマップの周知(年齢問わず)や、平時より身につけておくという習慣やいざという時の家族のルール設定等が課題と考える。
内容	<p>(1) 震災被害の背景</p> <p>私が住んでいるのは、岩手県陸前高田市という場所である。岩手県でありながら、伊達藩(宮城県)の文化を併せ持った文化を持つ特徴がある。この陸前高田市は、皆様のご存知のように東日本大震災で起こった津波の影響で、大きな被害を受けた。本日は、その災害経験から避難や備えについて等のお話をさせていただきたい。</p> <p>(2) 東日本大震災時の対応</p> <p>東日本大震災が発災して、津波が来たのは午後3時28分ごろである。数十秒後には、陸前市役所は津波に襲われ、市の職員は111人が犠牲になった。陸前高田市では、過去の津波被害の経験から防潮堤を作り対策をしてきた。しかし、その想定を超える15～17mの津波が押し寄せてきた。津波は川をさかのぼって内陸付近まで到達して、内陸部で安心していた多くの人が犠牲者となった。また、安全な場所で避難所として指定されていたところにも被害が及び多くの方々が亡くなった。人口24,246人のうち、死者・行方不明者は1,757人にのぼった。</p> <p>(3) 避難とは</p> <p>そもそも防災とは何か。それは災害を防ぐことである。人の生活や生命を脅かす事象全てが災害である。普通の暮らしが続けられる工夫、安全に</p>

	<p>過ごせる工夫、被害の発生を抑えられない物は被害を最小限に抑えられるような工夫、さまざまな災害によって防災のための備えが異なってくる。例えば、ハザードマップは安全を担保するものではない。そしてハザードマップ内でしか生活しないという人はいないであろう。学生が安全に通行できるようなところ、行きの準備がどのタイミングで必要か、どのくらいの雨でここが冠水するか、など、生活に根付いている事をしっかりと皆さんで共有していくことが大事になってくる。</p> <p>女性の視点だけでなく、生活者の視点で物事を考えていくことが大切である。多様な人たちの存在を認識して、それに合わせて対応しなければならない。毎日の生活をよくするための工夫が、いざという時の避難所の生活や安全に非難する事に繋がるだろう。そして避難とは、決して災害があった際に避難所に避難するという事ではない。状況に合わせて自分自身の身の安全を確保できることが避難であって、そのために移動したりその場にとどまったりするなど考えながら行動することが必要になってくる。</p> <p>(4) 最後に</p> <p>輪之内町の「住んでいてよかった これからもずっと 住み続けたいと実感できるまち」というフレーズはとても素晴らしい。まさにこれが災害の被害に対する予防につながるだろう。</p> <p>キーワードは自助・共助・近助が大切である。備え以上の事はできない。守りたい人がいるならまずはわが身の安全を確保する事が大切である。そして、日頃からの地域の人とつながりを大切にして生活して、いざという時に協力し合える準備をしていってほしい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
開催地より	<p>自分の住んでいる地域のハザードマップについて調べたことがなかったが、改めて災害がハザードマップのとおり起こったことを伺い、確認する必要があると感じた。ハザードマップをもとに災害時の危機管理を、事前に考えていきたい。</p>